



# 技術力で世界へ

(ジャパン マリンユナイテッド株式会社)

日本の国際競争力を強化するための戦略的な事業統合によって生まれた  
ジャパン マリンユナイテッド株式会社より特別寄稿いただきました。

## 総合重工系の造船技術を結集

韓国の大手造船会社は、日本の大手造船会社の売上高3千~4千億円を大きく上回る1兆円を超える規模であり、技術者の陣容もそれに比例して開きがあります。

平成25年に、国土交通省の産業活力再生法による支援の下、ユニバーサル造船とアイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドが統合し、ジャパン マリンユナイテッド株式会社 (JMU) が誕生しました。

造船技術を切り拓いてきた4社の技術者が何段階もの統合を経て集結。その陣容は千人を超える規模となり、また船の開発に必要な試験水槽設備も4種(船型試験水槽、運動性能水槽、キャビテーション水槽、氷海水槽)有するなど、世界の造船会社で最も多種・多彩な設備を持つ会社となりました。

世界の造船会社と伍していくためには規模だけではなく、技術開発力・設計力・品質・コストなどの総合力においても他国をリードしていくことが必要で、それらを目的とした統合も行われてきました。これらのことが日本の船舶・海洋の未来を切り拓くことにつながると考えています。

## トップクラスのエコシップ

世界をリードする技術の一つにエコシップがあり、日本の造船各社は、しのぎを削りながら省エネ技術を満載した船の設計に注力しています。厳しい事情環境の中でも確実に受注を積み上げており、JMUのエコシップも世界トップクラスの省エネ・親環境性能を有し、高い評価を受けています。

## 造船技術の活用による海洋開発と海上安全

日本は世界で6番目の広さとなる排他的経済水域を持っています。海洋開発により豊富な資源を将来の国家の富にしようと、さまざまな国家プロジェクトが動き出している中、JMUも造船で蓄積された技術力を生かし、復興日本を後押しするべく、福島沖での洋上風力発電プロジェクトに力を注いでいます。

また、四方を海で囲まれた日本において、海上での安全を確保することは経済活動のみならず重要です。JMUは護衛艦や巡視船など高度な船を建造することで技術を積み上げ、その高い技術を駆使し、海上の安全を守る一翼を担っています。

上/JMUが建造した、福島復興・浮体式洋上風力発電の変電所「ふくしま 絆」(写真提供:福島洋上風力コンソーシアム)  
中/今年3月に防衛省に引き渡した、海上自衛隊最大の護衛艦「いずも」です。約250mの飛行甲板があり、我が国の有事に加え、災害派遣および国際緊急援助活動において陸上自衛隊などの輸送および医療活動などの多様な任務にも期待されています。  
下/環境負荷低減コンテナ船(開発モデル)

